

とっとりの 農業が、 企業の未来を 変える

TOTTORI
CITY

鳥取市企業版 農業参入ガイド

Corporate Guide to Agriculture in **TOTTORI**



鳥取市で農業にチャレンジしませんか？

鳥取市は、農業の持つ力を未来の産業として再び輝かせたいと本気で考えています。

SDGs 未来都市として掲げる「食とエネルギーの地産地消」の実現に向け、

豊かな自然を活かしながら持続可能な地域経済への転換に挑戦しています。

市域の約 8 割を山林や農用地が占め、四季折々の風景と多様な命が育まれる

この環境は、大きな可能性に満ちています。

いま私たちはこの地で、「稼げる農業モデル」を企業の皆さまと共につくりたいと考えています。

農林水産部と経済観光部が連携し、企業参入のマッチングから経営計画策定、

地域とのネットワークづくりまで一体となって伴走支援します。

都市にはないフィールドが、ここ鳥取にはあります。

新しい技術と発想、地域との共創で、未来の農業と地域を共に創っていきましょう。

皆さまのチャレンジを心よりお待ちしております。

鳥取市を選ぶメリット

01

地理条件

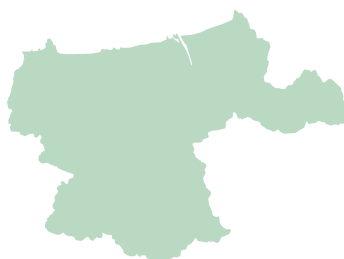
日本海の海の恵みや、
雄大な中国山地から流れる
千代川の豊かな水の恵みによって
育まれた、豊富な農地があります！

鳥取市は近年、
高速交通網の整備が進み、
生産地からインターチェンジが
比較的近く、物流の利便性が
大きく向上しています！

02

地一価

農地法の改正により、
リース方式での参入が
可能となり、初期投資を
抑えることができます！



03

手厚いサポートや 支援制度

官民が協力して、
生産から販売までトータル的に
サポートします。

農地の確保、地域資源（温泉等）
の活用促進、営農相談

- 農場の整備に係る経費の補助
等のサポートがあります！
- スマート農業に対してサポート
を行います！



次世代のスマート農業を展開

次世代のスマート農業は、

ICT 技術によって省力化された大規模栽培施設で、

マニュアル化された匠の栽培技術を再現することで高品質で高収量を実現します。

また、日々蓄積される栽培データを解析することで品質向上と生産性を高めていくことができます。

鳥取市では、地域エネルギー（温泉）の活用や、高付加価値をもたらすブランド化、

加工品開発、販路開拓をトータルでサポートし、それらの栽培ノウハウ、

販路を新規就農者へも広げていくことで、

高収益で持続性のある農業経営と産地形成をめざしています。



鳥取市がめざす脱炭素を通じた持続可能なまちづくり

鳥取市は、2015年度に策定した「鳥取市スマートエネルギータウン構想」に基づき、再生可能エネルギーの地産地消による地域脱炭素の実現、地域内経済循環の拡大に向けてさまざまな取組を進めています。



2023年 鳥取市は脱炭素先行地域に選定



おもな取組

1 「株式会社とっとり市民電力」の設立

2016年に開始された電力小売りの全面自由化を受け、地域で作られた電気の地域内資金循環を進めるため、2015年7月に鳥取市と鳥取ガス(株)の共同出資により、地域電力会社「株式会社とっとり市民電力」を設立。地域で作られた再生可能エネルギーを調達し、家庭や事業所に販売しています(2024年度決算期売上額21.8億円)。

2 脱炭素先行地域の取組

2023年度、鳥取市は、2030年度までに脱炭素化と地方創生を同時実現していく環境省の脱炭素先行地域に選定されました。高齢化といったニュータウン共通の課題を抱える「若葉台エリア」と、過疎地域で高齢化率が50%を超え、集落機能や公共交通の維持など中山間地域共通の課題を抱える「佐治町エリア」を指定し、モデル地域づくりを推進しています。

01 若葉台エリアでのおもな取組

- 事業者が戸建住宅・施設に無償で太陽光発電設備を設置して、電気を供給するPPA※サービス
※Power Purchase Agreementの略語で、電力販売契約を意味する。
- EV(電気自動車)の新交通サービスの実施(リユースEVリースサービス)
- 公立鳥取環境大学のZEB化※の推進
※ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングの略で、再生可能エネルギーの導入や省エネにより、消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指す建物。



02 佐治町エリアでのおもな取組

- 小水力や太陽光、バイオマスなど、地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入
- 公用車、コミュニティバス(地域交通バス)の電動化など



3 「株式会社スマートエネルギーとっとり」の設立

脱炭素先行地域の核となる事業として、戸建住宅へ太陽光発電設備・蓄電池を導入する住宅用PPAサービス、事業所等へ太陽光発電設備を導入する業務用PPAサービス、大規模太陽光発電所の整備など、再生可能エネルギーの地産地消の先進的な取組を展開していくため、鳥取市、ダイヤモンド電機(株)、(株)城洋、(株)市民エネルギーとっとり、(株)鳥取銀行の共同出資により、2024年12月に地域エネルギー事業会社「スマートエネルギーとっとり」を設立しました。現在、脱炭素先行地域エリアで電力サービス、発電所整備を展開し、培われた電力サービスは将来的に他地域へ横展開していきます。

4 農林漁業×再エネ事業

再生可能エネルギーなど地域エネルギーの活用によるスマート農業や、森林資源を活用した木質バイオマス熱電併給設備の導入など、賦存する資源を活用するだけでなく、地域内資金循環による経済の発展につながる事が期待される「農林漁業×再エネ事業」を推進しています。

株式会社 メイワファームHYBRID

本社:鳥取市/メイワボックス株式会社(本社:大阪府柏原市)の100%出資子会社
所在地:鳥取市鹿野町寺内33



メイワファームHYBRIDは、「温泉熱×ICT×ブランド化」を組み合わせた次世代型いちご農場です。

再生可能エネルギーを活用した環境配慮とスマート技術による効率化、6次産業化による高付加価値化など地域農業のモデルケースとなっています。行政のバックアップを受けながら、地域の新たな観光拠点としても発展が期待されます。



インタビュー INTERVIEW

ファームマネージャー おおもり ひとし 仁嗣さん

Q.農業参入のきっかけ

「安心・安全でおいしい食べものが、いつまでも“あたりまえ”に手に入る世の中であってほしい」

そんな思いがずっと心の中にありました。けれど、日本の食料自給率は年々下がり、農業人口もここ20年で半以下になっています。

いずれ、国産の食べ物が当たり前にならなくなる日が来るかもしれない。そんな危機感を持っていた頃、従業員から「農業にチャレンジしてみたい」という声が上がりました。ちょうどその頃、企業誘致でご縁のあった鳥取から「温泉水を活用したいちご栽培」のお話をいただき、事業としての農業を本格的に考えるようになりました。

「あたりまえ」を守りたいという思いから、私たちは「メイワファームHYBRID」を立ち上げました。



Q.鳥取で農業をすることの魅力

やっぱり、自然が豊かなことが大きな魅力だと思います。いちご狩りに来られる都市部の方にとっては、田んぼや虫の声といった風景が新鮮に映るようです。農業の面でも、農地が広く確保しやすく、新規就農にも取り組みやすい環境があります。実際に、地元の温泉の熱を活用した農業を行っていますし、自然の力を活かした農業ができるのも鳥取ならではの魅力です。



Q.他社との連携・協働

弊社はメイワボックスのグループ会社になりますので、食品や日用品などのパッケージ(包装)を企画・デザイン・製造しているメイワボックスの事業特性から、いちごの出荷用パックやラベルなどの包装資材の相談がしやすく、Instagramやホームページ上での広報についても心強く感じています。また、鳥取市内の企業には、センシング機器やクラウドを活用した環境モニタリング・遠隔制御といった、スマート農業の基幹となるシステムの導入や、実際に使用している農業機材の加工・カスタマイズなどをお願いしており、地域の技術力を活かして事業を展開しています。



Q.農業を始めてよかったこと、苦労したこと

自分たちのいちごを美味しいと言ってもらい、リピーターやファンがいてくれることに使命感を感じています。ICT導入により生育管理がしやすくなり、より美味しく、収益性と持続可能性の高いいちご作りを目指し、再生可能エネルギーを活用したスマート農業の確立に挑戦しています。

いちごは環境変化に敏感で、台風や浸水、ポンプ故障や停電など多くの困難がありましたが、それを乗り越える達成感と次シーズンへの希望があるから続けられています。



リバードアグリテック株式会社

本社:鳥取市(川口グループホールディングス株式会社)
所在地:鳥取市賀露町4112



リバードアグリテックは、農業用資材の製造・販売にとどまらず、自社農園の運営や観光型事業を通じて、鳥取地域の農業活性化に寄与する企業です。地元資源を活かした農作物の栽培を進めています。



インタビュー

INTERVIEW

取締役社長

やまさき たつや
山崎 達哉さん・フィールドマネージャー

おくだ ゆういち
奥田 祐一さん

Q.農業参入のきっかけ

弊社は1948年に資材会社として創業し、2018年に70周年を迎えました。その節目に鳥取県オリジナルいちご「とっておき」を食べ、「こんなにおいしいいちごを自分たちの手で作りたい」と社員の間で盛り上がったことが農業参入のきっかけです。70周年という契機に、「地元・鳥取へ恩返しができないか」と考え、農業法人化していちご栽培に挑戦しました。

地域が育てた「とっておき」を広め、鳥取の魅力を伝えることは地元への恩返しであり、同時に「愛する家族にいいモノを。地球の仲間がいいコトを。」という当社理念を形にすることでもあります。



Q.農業を始めてよかったこと、苦労したこと

もともと職場転換が柔軟な会社で得意分野が様々な社員がいますが、農業経験者はおらず苦労しました。当時、生産管理部門で事務をしていた社員が「やりたい」と手を挙げ、創業70周年の際にいちごを食べさせてくれた農園さんがアドバイザーになってくださったことで、農業参入が実現しました。

現在も虫や暑さへの対応など課題は多く、農業単体での安定経営は容易ではありませんが、収穫の喜びやお客様の「美味しい!」という笑顔は何ものにも代えがたいものです。現場で得た経験を企業活動に活かし、持続可能な形で地域に関わることが私たちの大きな財産だと感じています。

Q.鳥取で農業をすることの魅力

海と山が近いので色々楽しめていいですし、都市部に比べると人が少ないから時間がゆっくり流れるところが魅力だと感じています。

人との距離感も近く、コミュニケーションがとても取りやすいです。地域の方々とも自然とつながりができやすく、地域に支えられながら農業ができていますと実感しています。



Q.他社との連携・協働

グループ会社との横のつながりがあり、2024年からフード事業「food diversity tottori sakyu」を開始。ベリーバードを使用したフルーグル（フルーツ×ベーグル）も販売しています。肥料メーカーへ改良相談ができ、市内農家とも情報交換できる環境にあり、ライバルであり仲間でもある関係を築いています。

研修を受けた農園をきっかけに農家ネットワークが形成され、特に新品種「とっておき」いちごの栽培では試行錯誤の情報共有や農園見学、勉強会が活発に行われています。さらに弊社は農業資材部門を持ち、地域農家との既存の関係性があったため、新規参入時もスムーズに認知・受け入れられました。



愛ファクトリー株式会社

本社:鳥取市/IDホールディングス株式会社(本社:東京都千代田区)の100%出資特例子会社
所在地:鳥取市青谷町奥崎388



愛ファクトリー株式会社は、廃校を活用した葉物野菜の無農薬栽培を行う植物工場です。障がいのある人の就労支援と福祉×安全な農業を掲げ、水耕栽培と土耕栽培を組み合わせ、LED照明と空調で栽培環境を人工的に制御しています。また、再エネ利用、CO₂排出削減のデータ分析等も行っており、農×福×環境をつなぐ社会的価値と、植物工場の環境対応や品質管理を両立した先進モデルとして注目されている企業です。



認証情報



JGAP認証

2019年に認証取得

日本の農業における「良い農業のやり方 (Good Agricultural Practice)」を実践している農場や団体を第三者機関が認証する制度です。



ノウフクJAS認証

2021年に認証取得

障がい者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物の日本農林規格です。



インタビュー

INTERVIEW

代表取締役社長 **旅田 雅生さん**

Q.農業参入のきっかけ

愛ファクトリー株式会社は、IDホールディングスの特例子会社で、鳥取県米子市にITの開発拠点があることから始まりました。

ちょうど、グループの規模拡大に伴い、障がい者雇用の促進のために特例子会社の設立を検討していました。その頃、社会問題であった「空き施設の有効活用」と新しい農業スタイルの継承を求めている鳥取市からの提案を受け、現在の旧日置谷小学校で農業を始めることとなりました。ただ、職種としては農業ではなく、食料品製造業になります。



Q.農業を始めてよかったこと、苦労したこと

やはり、障がい者と共に働ける環境であることは、とてもよかったことだと思います。苦労したこと、苦労していることはたくさんあります。例えば、この旧日置谷小学校も、廃校になり随分経ち、老朽化が目立つようになりました。2024年には漏水があり、水道代が跳ね上がった月もありました。また、定時路線バスが廃止になり予約制となったことで、スタッフが早く帰る場合などは困ることがありますが、会社で所有しているバスもあり、対応できています。

Q.鳥取で農業をすることの魅力

自然がたくさんあることは大変魅力です。青谷には、山や田んぼ以外に海もあります。本社から来た職員が校舎の屋上から青谷の風景を見たときに「素晴らしい」と言われました。また、静かな環境なので、落ち着いて仕事をすることができます。



Q.他社との連携・協働

弊社はESGの一環として地域活性化に取り組んでおり、青谷地域ではまず企業や公民館、市役所支所などを訪問して信頼関係を築きました。その後、商工会や自治会の紹介を受け、「地域活性化委員会」に参加。地域課題やイベントを共に考える場を得て、祭り・清掃活動・文化行事などにボランティアとして積極的に参画し、地域の一員として活動しています。

さらに、「とっとりSDGsパートナー制度」への参画を通じて地元大学での研究協力等を行い、幅広く連携を進めています。青谷海岸での清掃活動をはじめ地域イベントにも積極的に参加し、地域に迎え入れていただいたことへの感謝を忘れず、恩返しを怠めて取り組んでいます。

／ オール鳥取で農業参入企業をサポートします ／

● 農業参入のための設備投資を支援します！ [鳥取市 経済観光部]

鳥取市企業立地促進補助金

対 象 事 業	会社法人が農業を行うための新增設	
雇 用 要 件	常用雇用者1人以上	
投資額要件	1億円以上	
限 度 額	2億円	
補 助 金 額	投下固定資産額の10% (特定地域※の場合、20%) 初年度賃借料の50% (特定地域※の場合、100%)	

※特定地域とは、鳥取市の国府町・福部町・河原町・用瀬町・佐治町・気高町・鹿野町・青谷町

● 農業経営への参入を支援します！ [鳥取市 農林水産部]

鳥取市企業等農業参入促進支援事業

対 象 者	農業参入後3年以内の一般企業等	
対 象 事 業	農業用機械・施設整備及びリースに係る費用	
限 度 額	500万円	
補 助 金 額	対象事業経費の1/3	

● 農地のことはご相談ください！ [鳥取市 農業委員会]

農地の利用をするためには一定の制限があり、申請手続が必要な場合もあります。
農地の利用に関しては、農業委員会にお気軽にご相談ください。

● マッチング [鳥取県 農林水産部]

中山間地域では、農業の担い手が不足し、後継者問題が深刻化しています。
問題解決に向けて、外部企業の誘致および地域と企業のマッチングを支援します。

お問い合わせは
こちらまで

鳥取市 企業立地・支援課

☎ (0857) 20-3225

✉ ricchi@city.tottori.lg.jp



鳥取市企業版 農業参入ガイド

[令和8年 3月 発行]

鳥取市経済観光部 経済・雇用戦略課
スマートエネルギータウン推進室